

中学校 1 年

筆者とツナガル・仲間とツナガル～仮説検証型文章を読もう

八尾市立成法中学校

教科

国語

単元名

「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ

単元のねらい

本教材は、中学校で初めて学習する「仮説検証型」の説明的文章である。「仮説検証型」とは、筆者がある事実や現象について「多分こうではないか」という仮説を立て、それを実験や観察、資料等をもとに検証していく文章構成である。本単元では、文章の展開や構成を丁寧に検討することで、その展開や構成が筆者の意見や主張に説得力を与えることを学ばせる。また、意見と根拠の関係性に加え、図表や細かな記述など、結論の説得力を高める工夫についても触れ、次単元の「根拠を明確にして書こう」につながるようにする。

本時で育む主な情報活用能力

C-STEP 4, D-STEP 2
E-STEP 3

該当番号の詳細内容は
「大阪府情報活用能力
ステップシート」から確認できます。



評価の基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○筆者の意見とそれを支える根拠との関係について理解している。：A ○意見と根拠、仮説、検証などの用語の意味を理解している。：B	○文章の構成や展開について、根拠となる段落や部分を明確にして考えを書くことができる。：A ○文章の構成や展開について、その内容を理解しようとしている。：B	○文章の構成や展開について粘り強く考え、見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。：A ○見通しをもって考えたことを、仲間の助言を受けて推敲し、文章にまとめようとしている。：B

単元における学習の展開（全5時間）

次	学習内容	主な評価規準【観点】と評価方法
第1次 (1時間)	・本文を通読し、大まかな内容を捉え、単元の学習の見通しを立てる。 ・題名について考える。	・題名から、筆者の考えや説明の方向を予想している。 また、文全体の内容を自分なりに整理し、学習の見通しを立てている。【思】 ◎評価方法：単元の学習計画・振り返りシート
第2次 本時 (2時間)	・これまでに学習した説明的文章と本文を比較するなどし、本文における筆者の論の展開の特徴(仮説検証型)をとらえ、仮説と事実の関係を明らかにする。	・「仮説」「検証」などの言葉の意味を理解している。【知】 ・仮説と事実の関係を正しく読み取り、説明できる。【知】 ・文を読み解く手法を自分で選択し、友だちと本文の構成を整理・比較する中で、筆者の論の展開の特徴を考察している。【思・主】 ◎評価方法：ロイロノートカード・ワークシート
第3次 (2時間)	・筆者の論の進め方の効果を考え、説得力のある文章とはどんなものかを考える。	・仮説と事実の関係をもとに、筆者の論の進め方の効果や説得力について、自分の考えをまとめている。【思】 ◎評価方法：ワークシート・単元の学習計画・振り返りシート

本時のねらいと情報活用能力をはぐむポイント

【本時のねらい】

シジュウカラ研究の進め方に注目し、筆者がどのように仮説を立て、それを確かめながら論を展開しているのかを読み取り、本文が「仮説検証型の説明文」であることに気づく。

【情報活用能力をはぐむポイント】

筆者の論の展開の特徴をとらえるにあたり、一つの手法に限ることなく、複数の手法から生徒が手法を選択して、本文の分析に当たることができるようにする。自分とは異なる手法で本文を読んだほかの生徒の考えやそれに至るまでの経緯に触れさせることで、一つの課題に対して、様々な角度や手法で文章を読むことのメリット・デメリットを体験し、今後の自身の読みにいかすことができるように努める。

また、とりわけ本時は、同じ読みの手法をとっている生徒との協力が多くなる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・ロイロノート（学習支援アプリ） ・ Padlet（オンライン掲示板アプリ）

本時の展開（第2時/全5時間）

学習の流れ	学習者の主な学習活動と内容	授業者の指導・助言のポイント・工夫
導入 (5分)	○前回(STEP1)の振り返りと、今回(STEP2)の「モチベ・頑張りたいことを記入する。 ○本時のめあてと流れを確認する。 本時のめあて: 筆者の論の展開の特徴をつかもう! ~この文の特徴は〇〇なところ。	・前回の振り返りには、可能な限り自身の具体的な活動の反省を記入させ、本時の活動にいかせるようにする。
展開 (40分)	○本文の特徴をとらえるための手法の説明を聞き、手法を選択する。(5分) 【手法】 ①これまで学習した説明的文章との違いを比較する。 ②意味段落ごとに要約した文を並べ替えながら考える。 ③本文を四つのまとまりに分け、そのまとまりの意味を考える。 ④その他(自己流) ○選択した手法で本文の論の展開の特徴について考察し、考察したことをロイロノートのカードかワークシートにまとめる。 ○同じ手法を選択した生徒と考えを比較・共有し、自身の考えを深めたり、まとめ方の推敲をはかたりする。	・多様で客観的な意見や考えを取り入れるため、できる限り同じ手法を選択している生徒と積極的に交流することを啓発するが、1人で黙々と文章と向き合い考察することも容認する。 ・生徒同士の交流に終始せず、選択した手法ごとに集合させ、成果物や考えの公式な共有と助言を授業者のもと、行う。
まとめ (5分)	○成果物の途中経過をロイロノートで提出する。 ○本時の活動の振り返りを行う。	・次回の授業の導入で、優秀な成果物を紹介し、授業の活動にいかせるようにする。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

中学校に入学してから半年が過ぎ、子どもたちは少しずつ中学校での学校生活や学びに慣れてきた。一方、国語の授業では、「正解がわからない」「読むのが苦手」と感じ、すぐにあきらめてしまう生徒が入学当初は散見された。そこで、授業の中で子ども同士の関わり(ネットワーク)を大切に、協働して考える時間をこれまで多く取り入れてきた。学習班だけにとらわれず、クラス中を歩き回って、多くの友人の考えに触れることで、「そのような見方があるのだ」と気付く、自分の考えを言葉にして確かめ合う、このような経験を入学当初から重ねることによって、「自分1人で文章や課題と向き合い、考える時間」でも、積極的に自分の思ったことや考えたことを文章にならなくても、ワークシートに書き込む生徒が増えたように感じている。

本単元においても、1人で読んでわからないところは、仲間と一緒に読んで気付くことができるように、対話的な学びを中心に考えている。一人一台端末が生徒に配付されてまだ日が浅いが、そういったものも有効活用しながら、将来的に子どもたちが困ったときに「助けて」と言える関係・環境作り、そして互いに「こうすればいいのでは?」と支え合う学習集団を、授業を通して育てていきたいと考えている。

また新たな試みとして、Padletを導入する。思考整理の選択肢として、オンライン上で同じ手法の仲間に疑問を打ち明けたり、話し合いの内容を可視化したりできるようにする。